



第六十九回 富山県芸術祭主催
第二十四回 富山県民芸術文化祭参加

秋季俳句大会 中止

大会募集句の選句、受賞は実施

富山県芸術祭主催並びに富山県民芸術文化祭参加の秋季俳句大会は十月三日(土)午後一時より北日本新聞ホールに於いて開催の予定であった。

八月二十二日、北日本新聞社十階会議室にて富山県俳句連盟の役員会を開催。

中坪達哉会長より秋季俳句大会は春に続いて、新型コロナウィルス感染拡大を懸念し、計画していた事業を実行するべきかどうか提案し、出席役員一同の賛同を得て中止の運びとなった。

なお、秋季俳句大会募集句六〇四

句(三〇二名)については連盟役員

により選考され、その特選句、入賞句の賞状、賞品は直接、事務局より各入賞者に発送された。そして、十月七日の北日本新聞紙上に入賞作品は掲載され、公表となる。

その子細は本会報九十一号に掲載し発表。なお、発刊した合同句集(第四十五集)も大会当日配布の予定であったが、事務局より各自に発送した。

又、北日本新聞社主催の「越の賛歌」海作品(投句数二九二句)の入賞作品百句は十月二十九日付け北日本新聞朝刊に掲載され、発表となっ

令和二年十二月一日発行
富山市安住町二一〇四
〒930-0094 電話 〇七六-四四三-四四三
振替番号 金沢 五一一七二〇八
北日本新聞社編集局内
富山県俳句連盟

た。
今般も新型コロナウィルスの感染防止のため止むを得ない対応であった。

富山県現代俳句協会
秋季吟行俳句大会

秋季俳句吟行俳句大会を中止し、一人二句の応募句(一九二句)九月九日締切り、応募者九十六名のうち九十二名の通信による五句の選句をおこない三十二句を入選とした。


天 位
端居して風に聞かせるひとり言
久崎富美子

地 位
どこへでも行きたい新車夏帽子
石田 英子

人 位
補虫網いま少年になるところ
八尾とおる

「虚子」に学ぶ日本伝統俳句協会
北信越支部 Web 会報
[古壺新酒] <https://57web.com/>

1 QRコード(携帯電話でも可)
2 主なメニュー
各地イベント 結果
入門講座 入会案内
句碑案内 芭蕉の足
跡 俳句随想「俳句つれづれ」句集紹介など
日本伝統俳句協会・北信越支部活動として、Web会報(案)や最近の俳句づくり・鑑賞情報を掲載しました。



二〇二二年度
夏季吟行会(予定)
とき二〇二二年七月十八日(日)
ところ 射水市高周波文化ホール
三階会議室
射水市三日曾根三一二三
講演会 なし

二〇二二年度
総会・俳句大会(予告)
とき二〇二二年六月五日(土)
ところ 北日本新聞ホール
講師 「いには」主宰
村上 喜代子 先生
演題 「林火に学ぶ抒情の本質」

秋季俳句大会作品抄

◇連盟選者特選句

義 信選 声もらす手話の口許ひろしま忘 酒井 和世
 順 子選 軒風鈴筆持つ部屋に生まれけり 石崎千鶴子
 かつを選 草引くや心ほぐるるところまで 浅尾 京子
 冬 青選 アロハシャツ肩書きいらぬ暮しかな 清水真智子
 英 子選 雲の峰「昼のいこい」のテーマ曲 山崎美江子
 玲 子選 鶏頭の一本あれば奮い立つ 牧野きよ子
 可津志選 去年の釘軽く打ちこみ葭簀張る 岡田 康裕
 置 箔選 娘の椅子の二階に軋む夜長かな 沼田 勇風
 こつき選 潮騒は風をつぶやき夏惜しむ 成重佐伊子
 康 裕選 朝採れの野菜交換雲の峰 布本美知子
 久 惠選 子等継がぬ田水落すや明日は晴 神田 邦子
 城 子選 慕仕舞いした跡ひとつ秋茜 林 紀男
 ゆう子選 本開く私の時間夜の秋 蛭川 栄子
 弥 生選 日本列島とこかが病んで梅雨出水 丸田美恵子
 富美子選 夫婦して母を護りし虫の夜 畑 真理子
 美智子選 あめんぼうどこにも見えぬ力瘤 但田 長穂
 洋 子選 声もらす手話の口許ひろしま忘 酒井 和世
 直 彦選 夏帽子膝に主治医のことば待つ 森 純子
 一 子選 西瓜売るお嬢の小さき電卓機 水野 元雄
 重 之選 まだ住んで居ります柿の木が好きで 田村 浩美
 吉 章選 雲の峰父と母とが会うような 吉見 啓子
 桂 子選 新涼やけふはパパ押すベビーカー 平木美枝子
 恵 子選 はれそれと抱きぐせつけし日焼けの手 田村 浩美

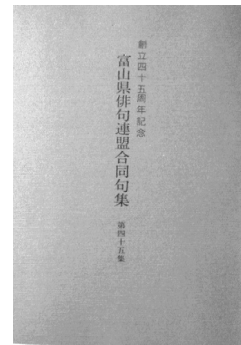
昭 夫選 立秋の机上に評伝前田普羅 山下久美子
 眞知子選 子供等の眸集めて割る西瓜 寺島 皎
 寿 山選 新棋聖まだういういし夏羽織 日合 英子
 三 久選 ヒロシマの日や不燃物収集日 五箇 洋子
 平 太選 去年の釘軽く打ちこみ葭簀張る 岡田 康裕
 達 哉選 畳拭く膝に力や盆支度 池崎みき子
 三津夫選 大夕焼戦禍逃れて存へて 四宮 一子
 睦 子選 爽やかやからだにかすかなる浮力 有澤 嘉月
 美知子選 離れ住む淋しき自由花栲 荒田眞智子
 多佳子選 山がかるより老鶯の径となる 北川 秀子
 栄 子選 せせらぎは水の堅琴秋澄めり 石田阿畏子
 幸 子選 稲の秋黄金明りの越の国 大西 昭子
 千鶴子選 朝霧のながれて山の匂ひ立つ 牧田 孝子
 純 子選 しなやかに弾け高跳び夏雲へ 中島 平太
 稔 選 電気柵外して通る慕参り 池崎 悦子
 とおる選 沖のみを照らす灯台月見草 堀 智恵子
 ◇入賞句
 天位⑩ 夏帽子膝に主治医のことば待つ 森 純子
 地位⑩ 日傘閉づ一万歩にはほど遠く 青木 恭子
 人位⑧ 去年の釘軽く打ちこみ葭簀張る 岡田 康裕
 4位⑧ 青田まぶし一駅ほどを微睡みて 野中多佳子
 5位⑦ 蛭出て平家の谷を深くする 中尾 三久
 〃⑦ 西瓜売るお嬢の小さき電卓機 水野 元雄
 〃⑦ 声もらす手話の口許ひろしま忘 酒井 和世
 〃⑦ 逝く夫に持たす好みの夏帽子 中 やす子
 〃⑦ アロハシャツ肩書きいらぬ暮しかな 清水真智子
 6位⑥ 一病を忘れてをりぬ更衣 平澤 敏子
 6位⑥ 耳病んで人遠くせりいわし雲 杉本 恵子
 〃⑥ 蓮の花村にきれいな風ながれ 澤井悠紀子
 7位⑤ 睫まで濡れて戻りぬ滝しぶき 小幡富貴子
 〃⑤ 硫気かすか震へ止まざるちんぐるま 升田 義次
 〃⑤ 帰省子にふるさと高架駅となり 但田 長穂
 〃⑤ 軒下を措りて休憩草刈女 澤田 敏江
 〃⑤ 燐寸擦ることから教へ墓誌語 森野 稔
 〃⑤ 青梅雨やけふは一番好きな傘 久崎富美子
 〃⑤ 離れ住む淋しき自由花栲 荒田眞智子
 〃⑤ 届かざることは承知よ草矢射る 室井千鶴子
 〃⑤ 大夕焼戦禍逃れて存へて 四宮 一子
 〃⑤ 山がかるより老鶯の径となる 北川 秀子
 〃⑤ 盆用意すべて整ひふとむなし 木野本靖子
 〃⑤ 鍵穴に鍵滑り込む今朝の秋 島倉 千春
 8位④ あめんぼうどこにも見えぬ力瘤 但田 長穂
 〃④ 子等継がぬ田水落すや明日は晴 神田 邦子
 〃④ 子供等の眸集めて割る西瓜 寺島 皎
 〃④ せせらぎは水の堅琴秋澄めり 石田阿畏子
 〃④ まだ住んで居ります柿の木が好きで 田村 浩美
 句集ほか出版紹介
 土田由朗「アロハシャツ」 R2・8
 岩城未知第二句集となみ野「雪解」 R2・9
 「57506」俳誌五七五 6号 R2・10
 アフタヌーン俳句会合同句集 R2・10
 VITAクラブ俳句教室令和元年度合同句集 R2・10

富山県俳句連盟 越の賛歌百選

兼題「海」 入選作品〈得点順〉

- 1 風はらむ瀧宜の袂や海開き 野中多佳子
- 2 すぐそばに海ある暮し日焼けの子 成瀬 輝代
- 3 今朝秋の波が残せし貝ひろふ 浜谷 栄子
- 4 まだ何か捕れさう海女の笛つづく 中尾 三久
- 5 夕焼が溶けだしている水平線 中島 黎子
- 6 海王丸mast高々盆の月 北川 越草
- 7 山小屋の窓に晩夏の富山湾 高橋せつ子
- 8 海よりの風まだ甘し夕端居 中坪 達哉
- 9 海霧晴れて町ゆつたりと動き出す 室井千鶴子
- 10 義経の伝説岩や海は秋 岡本 芙美
- 11 潮風とひと日遊びし髪洗う 堀 真智子
- 12 日本海夏百日の松の色 田井三重子
- 13 烏賊釣り火米騒動の沖しずか 稗苗 良一
- 14 夕風や歩いて能登へ行けさうな 川上 美佐
- 15 葭切や大河静かに海に入る 升田 義次
- 16 万葉の月も海辺もとこしなへ 黒瀬 行雲
- 17 万葉の磯辺の松の緑立つ 岩城 未知
- 18 立山を背にする海や鯛の浜 上田日佐鷹
- 19 家持の詠みたる潮は青田波 窪田富美子
- 20 父の息二つの浮輪膨らまず 明官 雅子
- 21 夏蝶に誘はれ海へ続く道 齊藤由美子
- 22 海の日潮騒を聞くばかりなり 平井 弘美
- 23 あかつきのエンジン音や夏来る 石田 英子
- 24 朝風の釣り舟帰る有磯海 北川 秀子
- 25 潮の香や松に手を置き秋の風 石工 冬青
- 26 蟹気楼出でてふロマン小津の海 丸田美恵子
- 27 突堤に日の出待ちるる夏帽子 水上 玲子
- 28 薔薇園のバージンロード海の風 清水真智子
- 29 帰省子を持つ海の色空の色 澤井悠紀子
- 30 終戦日脚組み替へて海を見る 谷 順子
- 31 夕風や余熱に白き古志の浜 日岬雅美
- 32 朝霧を漁舟が帰る回轆轤 堀 智恵子
- 33 海花火果てて北斗は柄を伸ばす 山下久美子
- 34 海鳴りのかぶさる里や鯛起し 船平 晩秋
- 35 潮水に触るる指先白日傘 高木 昭夫
- 36 ゆらゆらと沖の絵巻や蟹気楼 森 純子
- 37 雄山背に有磯女岩夏の風 伊勢 良子
- 38 海越しの立山を撮るらむ夏帽子 大谷こうき
- 39 俳諧の海の深さよ風涼し 町田 忠治
- 40 奈呉江の渡船のデッキあいの風 稲垣 寛
- 41 てらてらと一湾攫う大西日 盛本紀久子
- 42 海開き波に聞かせる祝詞かな 源通ゆきみ
- 43 留守電に海市出てるとく来よと 片桐 久恵
- 44 海という大きな器夏落暉 青木 章子
- 45 海の日立山連峰海越しに 柄沢 恭子
- 46 飽きるほど富山の魚帰省子に 大崎 寛子
- 47 炎昼の海ふくらみて能登遠し 山元 飛鳥
- 48 秋の声北鮮はるか拉致の海 平澤 宏修
- 49 終点の風は潮の香冬かもめ 二俣れい子
- 50 漁師町海より昏れて星流る 荒田眞智子
- 51 丘涼し子と確かむる定置網 水野 元雄
- 52 有磯海や魚づくしの夏座敷 大西 昭子
- 53 螢鳥賊の海に一礼出漁す 吉野 恭子
- 54 漁火の美しき一湾秋に入る 神田 邦子
- 55 父は立山母ふるさとの有磯海 井上すい子
- 56 鎮魂の七十五年大花火 濱元 旭子
- 57 海霧ごめや義経岩を秘すること 角田 睦子
- 58 灯台の町の暮らしや夏来たる 鹿熊 紀子
- 59 集金の自転車止まる海の家 加藤 英一
- 60 ヒスイ探す影ゆつたりと海晚霞 田中 憲子
- 61 大漁をめざす船団春の海 数井 晴美
- 62 夜の秋小舟の宿る奈呉の海 横沢 秀典
- 63 継ぐ瀨宜の若き声伸ぶ海開き 久保 俊一
- 64 大夕焼北前船の海にかな 四宮 一子
- 65 夏の家すくつて少し舐めてみる 坂井二三
- 66 逝く夏や海辺に拾ふうつせ貝 脇坂琉美子
- 67 沖あひに能登の山見ゆ葛の花 泉 幸子
- 68 義経岩松の梢の秋の声 寺島 皎
- 69 石ひとつ動かしてをり夏の海 川上 弥生
- 70 地曳網漁廃れ冬の海平ら 石田阿畏子
- 71 朝風や東立山西の能登 宇波可津志
- 72 雨晴の海より虹の立山へ 西野 睦子
- 73 夜とても湾の幻蟹気楼 渡辺 啓子
- 74 潮風の匂ふ小路や月見草 村田 悦子
- 75 湧き水におどるとまよや海の駅 生田 伸子
- 76 「海行かば」と歌いしあの日暑い浜 高嶋 幸子
- 77 波谿の磯ゆつたりと夏はじめ 鈴木 芹子
- 78 蜜柑もぐ遠目に小島漁舟 吉村 昭雄
- 79 立山剱岳海染みわたる大夕焼 篠原 葉月
- 80 深海に蠢くいのち稲ひかり 高野 弘深
- 81 ネプタ果て人去りし黙波の音 松尾 浩子
- 82 夏の浜風に火葉の匂ひあり 志摩 一美
- 83 青田波海まで続く千枚田 中陳 啓子
- 84 突堤に跳ならべて釣りの児ら 有川 寛
- 85 海市立つ妣のやさしさ誰も似ず 福島やす子
- 86 海の藍深まりてより秋めける 北尾 久子
- 87 餌遣りの上手下手ある海猫の群れ 林 紀男
- 88 潮騒を旅の枕に明易し 坂本 昌恵
- 89 秋立つや「海」の貴婦人「風」となり 吉崎 陽子
- 90 釣竿の並ぶ突堤鱗雲 松谷眞佐子
- 91 去ぬ燕海神の沖平らなり 二口わこう
- 92 夏潮を切りさき進む北前船 あらたあきら
- 93 気嵐に揺らぐ出漁船の影 西田 広子
- 94 帰省子の富山の海の青さいふ 大坪沙智子
- 95 朝すでに硝子越しなる夏の家 小森登美子
- 96 打水の先真青なり有磯海 宮西 昌子
- 97 Vサイン網のふくらむ鮑海女 蜷川 栄子
- 98 草刈や海汚すまい流すまい 池崎 悦子
- 99 大根蒔く海の暮しを知らぬまま 川井 城子
- 100 風を読み鯛まだ来ぬと漁夫の言ふ 境田 芳雄

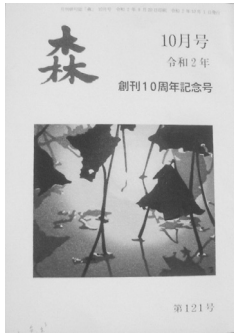
消息



十月三日、富山県俳句連盟は合同句集(四十五集)を發刊した。

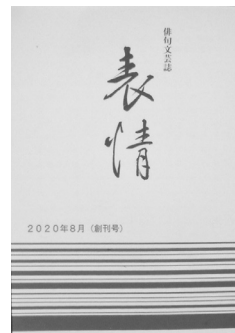
参加、二八四名の秀句十五句掲載。なお、平成二十七年十月より、令和二年八月迄の連盟の活動全てを五年のあゆみとして子細を掲載。又、その間の大会の講演要旨(年一回)を完全掲載。

定価、三千円。希望者は事務局までお申し込み下さい。



「森」十月号は創刊十周年記念号である。森野稔主宰の作品十二句の他、小刻みに誌齢を重ねると題し、創刊十周年にあたり、今後の会員増を望むより現在所属する皆様と共に歩み、志を高く俳句文化の定着に寄

与していきたい」と所感を掲載。又、記念号として主要同人二十八名のエッセイと作品十句を発表。十年間の充実感が熱く伝わる。他、五名の著名俳人の記念特別寄稿文を掲載。



「人」誌五百号をもって終刊したことにより県俳連幹事、「人」同人会副会長の川井城子は俳句芸誌「表情」を創刊。

県内の仲間他、熊本、逗子、北海道等からも加わり約四十名。

俳誌名を第一句集「表情」よりとり、あらゆるものの表情を捉えられればと創刊の辞で述べる。

又、「城端の古句」エッセイ「紀の貫之の冒険」「連句の味わい方」を掲載している。

棟方志功展記念講演会

十月十六日(金) 福光美術館にて「辛夷」主宰、中坪達哉県俳連会長が、「とやまの言葉風土と棟方志功」と題して講演。志功の人となりと俳句作品を紹介。定員制限のなか、大

変盛況で、参加者は熱心に聞き入っていた。尚、YouTubeにて配信

八尾町民俳句大会

(八尾ふらっと館)

十月四日(日)開催。参加 九名
八尾町文化協会 村山志水特選

玉生 周子 平野 孝純
野原 良枝 喜多つぎ子
水上そのえ

「辛夷」年次俳句大会

十月十一日(日)富山電気ビルにて開催の予定を中止。募集句で対応。令和二年度

辛夷賞 明官 雅子 二俣れい子
衆山賞 平井 弘美 中島 平太
奨励賞 金山 千鳥 水上 玲子
年次大会句
地位 岡田 康裕

大日岳へ青攻め上る立夏かな
伐られたる夏木何の木株撫でて
地位 井上すい子

人位 平井弘美、石黒順子、二俣れい子

第47回 砺波市文化祭俳句大会

十月十一日(日)砺波市文化会館にて開催予定を中止。募集句で対応。中坪達哉県俳連会長 選
天位 満天の星見つ点検粉乾燥 藤井 雅晴

地位

みせばやの咲きし亡き娘の誕生日

八田 尚子

黙々と網張る蜘蛛に月あかり

北島 ふみ

人位

補欠の子声は負けずに秋の空

森松まつこ

ミニトマト明日来る娘に摘み残す

平木 丈子

通るたび犬の水替ふ残暑かな

二俣れい子

「寒潮俳句会」俳句大会

十一月十一日(水) 呉羽ハイッにて開催。参加四十名。

天位

涼しさを指よりこぼす水の町

中島 黎子

地位 平譯 宏修

人位 小野田洋子

編集後記

連盟会報91号をここにお届け致します。ウィズコロナの関係で今年度の大会を、二度とも中止致しました。会報の編集も特別仕様になっておりますこと、ご容赦下さい。来年度は予定通りに事業が進むこと祈って止みません。

〒九三九-18-1 南砺市理休 二二六

川井 城子

FA・TEL(076)261-1308